

# 【ねがいましては】

平成17年4月25日

第176号

KYOWA SCHOOL

「やすらぎ」

4月1日、久しぶりにSちゃんが教室を尋ねてくれました。大学の入学式の帰りなのだそうです。

『あまり目立たない子』というのが小学校時代の私の彼女への印象です。ただ明るさだけは絶やさないう子でした。中学へ入り2年生の冬休み、数学に目覚めます。やや複雑な計算問題を楽しそうに解き始めました。それから「火」がついたとでもいうのでしょうか、安定した日々を過ごします。そして高校合格。その高校は私立であり、しかも『特待生』であり、学費免除という扱いでした。もちろん学校の看板を背負って通うわけですから、それなりの成績を収めなければなりません。かなりのプレッシャーであったと思います。やがて大学受験を真剣に考えなければならぬ時期にさしかかります。学校側からは3年生になったら、部活はやめなさいとの命令もあったそうです。

そして受験、『上智大学』に合格しました。そんなSちゃんがスーツに身を固めさっそうと現れたのです。

立派になって……。第一印象は当たり前かな……。高校在学中、かなり忙しい生活を送っていたようで、キャンプには高校一年生の時に参加してくれましたが、その後2年間はほとんど教室に顔を出しませんでした。

「大変だったなー、辛かったなー。」と、わたしの何気ない一言に……。彼女はいきなり「わーっ」と泣き出しました。ちょうどくりランの期間中でしたので、教室にいた他の生徒たちも少々ビックリ。

張り詰めていたものがあったのでしょうか。ふっと気持ちが楽になったのでしょうか。なんとも言えぬ愛おしさを感じました。私も思わずもらいそうになり、こらえるのに必死。

そんな彼女が翌2日、メールを送ってきました。くりたのランチをご利用になられた方には、「振り返って」で紹介いたしました。(原文のまま)

実は、最近、個別指導塾のアルバイトをしているのですが、昨日久々にKYOWAに行ってみて、最近、本来の勉強のスタイルを忘れていたなあ……と実感しました。KYOWAの子達と、私の働いてる塾の子達では、「皆いい子」という共通点はあるものの、自発性において大きな違いがあるのだとわかりました。塾の方針で、宿題を毎回出すようにと言われているんですが、どうしたら「やらせ」の勉強にならないのだろう……??と悩み中です。皆には、「周りの期待を裏切りたくないから勉強をする」という辛い目にはあってほしくないのに、もしかしたらプレッシャーになってしまふのかな……とあとで後悔してしまうような事も言ってしまったりしたし……勉強嫌いの子の役に立ってあげられない自分がとても悲しいです。

それに対し私は以下のように返信いたしました。名前のみイニシャルに変えてあります。

この教室で育ったSちゃんも、時間がたてば感触も薄らぎます。

でも、知らないうちに身につけていた「ポジティブ」な性格は、この教室ならではのもの。

Sちゃん自身も、この教室で「宿題」を出されたことがないのです。

「成績」だけをターゲットにすると、宿題は必要なものかもしれません。

授業料を、親の顔を考えても、「宿題」は必須なものといえると思います。

塾ではちゃんと子どものことを考えているのだなという印象を与えますから……。

Sちゃんも働いている以上、その団体の方針に従わざるを得ません。

さて、今までのお話の中に現れなかったもの……。

それが子どもの「こころ」です。

塾である以上、金儲けである以上、成績を上げてナンボ……なのです。

世間がすべてそうなのです。

私はみんなから「こころ」をいただいています。

こどもたちから温かいものをいただけてきました。

恩返しがしたいのです。

子供たちの心が透明になってゆくのをみたいです。

そういうＳちゃんも、今これを読んでいて「とうめい」な自分に気が付いてください。

わたしにはそんな子たちがいるのです。

ドラマってあるじゃないですか。

子どもたちとの間では、その「ドラマ」が作れるのですね。

わたしは大人です。

でも、ひとりの人間です。

幸せな人生を送りたいと思う「欲」はあります。

と同時に、わたしの周りの子たちが「しあわせ」になることもわたしの「しあわせ」なのです。

純粋に思います。

だから苦しんでいる子の「こころ」を明るくできたとき・・・。

わたしは嬉しくてなりません。

と同時に、子どもに住み着いているさまざまな「病」に真剣に立ち向かうことも必要です。

それが「しかる」ということだと思っています。

その「しかる」が最も難しいと思います。

その子の気持ちになりきらなければ

その子の中に入り込めません。

「勇気」が必要です。

結論が見えてきましたか？

わたしは子どもの味方になりたいだけです。

弱者の味方になりたいだけです。

カッコいいかもしれませんが、

子どもたちにうそをつかれることもありますし、

突然なんの前触れもなく、親の命でやめてもゆきます。

辛いです。

数日間、夢にまで出てきます。

これがわたしの仕事です。

体がいうことを利かなくなるまで、やり続けたいことです。

魅力あるでしょう！

さて、いろいろ考えてください。

悩むのではなく、前向きな自分を精一杯に発揮してください。

そして、またわたしに聞かせてください。

たった一回の自分の人生、

精一杯の「Ｓちゃん」を見ていたいかな？

青春・・・何事にもぶつかっていけるエネルギーを秘めた時代

ですよ！

ではでは・・・。

読んでくれてありがとう。



文法もバラバラ、カッコ良すぎな面がほとんどなのですが、彼女は母親にこう語っているそうです。今通ってい

るアルバイト先のことを『塾』と呼んでいるそうです。さて、この教室はと申しますと、『寺子屋』と呼んでいるそうです。それを聞いたとき、わたしは「やったね！」と思いました。正に寺子屋……。最近よく生徒たちとの会話に出てくるのですが、

「先生はね、小さい頃お医者さんになりたかったんだよ。」

「んー！じゃー今からなればいいじゃん。」

「今からは無理だよ、でもね、今こうやって子供たちの心のお医者さんやってるでしょ。」

「そっかー！そうだよ。」

やすらぎを感じながら向かえる場……。それが本来の学校の原点ではないのか……。切にそう思います。子どもたちを取り巻く不安を一切なくして、やすらぎを感じる教室にしてみたら……。見えてきました。透明な心を持った子どもたちが、安心感に包まれた子どもたちが、素直な瞳を向けてくれる子どもたちが……。

今回のくりたのランチでも、何人も気持ちの変化を遂げた子があらわれました。「そのままの気持ちで学校始まっても生活してね。」と、祈るばかりです。

Sちゃん、あなたが尋ねてきてくれて、あなたに感動しました。そしてまたまたここに通う子たちのすばらしさに感動しました。

ありがとう。（あなたにことわりもなくメールを掲載したこと、許してね！またお肉ご馳走します。）謝！